

Replaying Japan Journal Vol.6 発刊に寄せて

ロート マーティン

Martin Roth

Ritsumeikan University, roth1003@fc.ritsumei.ac.jp

本巻で6巻目を迎える *Replaying Japan* はもはや苗木の研究誌ではない。本巻に含まれている論文や研究ノート、インタビューのタイトルから伺えるように、日本におけるゲームやゲーム文化の議論はもちろんだが、ゲームというメディア・文化・媒体が私達に突きつけている幅広い問題を、英語・日本語で論じられる場になってきている。

こうして、ある意味で「安定」したとも言えるが、今後のさらなる発展を期待し、第6巻から編集体制の拡張を決めた。本誌の発展を初期から編共同編集責任者として支えてきた稲葉光行（日本語）と *Geoffrey Rockwell*（英語）が、今年度からアドバイザリーボードという新たな立場に移り、*J r mie Pelletier-Gagnon* と *Mimi Okabe*（英語）、井上明人とロート（日本語）が新編集部を形成した。本体制を通じて、今後も日本のビデオゲーム、ゲーム文化、および関連メディアを対象とする研究の場として機能し、それらのテーマにおける議論を支え、発展させていきたい。

しかし、それは、著者、読者、査読者、そして編集者をはじめ、立命館大学ゲーム研究センター（RCGS）の事務担当の職員や、本誌の出版準備に携わったスタッフの方々と共に作り上げていくことによってはじめて成り立つものである。改めて、ここに深く御礼を申し上げたい。

2024年2月